

POLLOCK

特別展 メトロポリタン美術館所蔵

ジャクソン・ポロックの素描

主催 渋谷区立松濤美術館・東京新聞



無題 1952-56年頃 メトロポリタン美術館所蔵

昭和60年

8月20日(火)～9月29日(日)

渋谷区立
松濤美術館

講演会

- 8月24日(土) 午後2:00～
アメリカ美術の彗星ジャクソン・ポロックとアクション・ペインティングの意味
- 9月7日(土) 午後2:00～
ポロックとニューヨークの美術

美術評論家 木島 俊介氏

草間 彌生氏



戦争 1947年



人物による構成 1933~39年頃



習作二題 1943年頃



無題 1945年頃

ジャクソン・ポロックの芸術

ジャクソン・ポロックは、ヨーロッパの各地に抽象美術が萌芽し始める1912年に誕生し、アメリカのニューヨークがその中心地となり始めたまさにその時、1956年に、自動車事故により亡くなりました。

だがポロックの出生地はパリでもニューヨークでもなく、芸術とは殆んど無縁の土地ワイオミング州の片田舎であったのです。農場労働者の息子であったポロックは、この地をはじめとして広漠たる大西部の原野を転々としつつ成長したのですが、芸術家を夢見ていた母親の強い影響に支えられて18才にしてニューヨークにやって来てからは、極度に多種にして激烈な芸術の洗礼を受けることとなったのです。その中には、アメリカの地方的な情景を描く地方主義の画家がいるかと思えば、リベラ、オロスコ、シケイロスのごとく多分に思想的に社会主義リアリズムを標榜するメキシコの壁画作家たち、そしておそらく最も強力な存在としてピカソの絵画を第一に、ミロ、カンディンスキー、クレーの絵画およびヨーロッパの殆んど全ての前衛芸術、そして1940年代となると、大戦を逃れてアメリカに亡命して来た幾何学的抽象主義のモンドリアン、アルバースなど、またアンドレ・ブルトンを筆頭にシュールリアリストのエルンスト、ダリ、マッソン、そしてこれらの影響から種々雑多な作品を作り出している若いアメリカの芸術家たちがいるという状態で、まさに芸術の坩堝のなかに投げ込まれるかたちになったのです。

ポロックの芸術が、こうしたヨーロッパ前



無題 1948～49年頃



無題 1944年頃

衛芸術の多様性とあの西部の原野の大いなる単調さを繋ぐ方向にむかったのは当然のことだったでしょう。つまり彼は、ヨーロッパ的な形式とアメリカ的な空虚を、有と無とを結ぶという極度に困難な道に歩を進めたのです。

精神の奥底から芸術の主題を自動的にひきだして来るというシュールリアリズムの理論がポロックに受け入れられることになるのはこのような背景によってでした。これはいわば無から有を生ずる方法でもあるわけです。またこれと関連して、深層心理学者、特にユングの元型の概念、すなわち無意識の分野から表われて来る形は多くの人々にとって共通の意味を持ち得るという考え方がポロックをとらえました。彼はこの時、あの広漠たる西部の原野に豊穡を祈願して砂の絵を描いてゆくインディアンを夢見たのです。しかも彼等のその形象は陽の入りまでに消えてしまわなければ効果はないのだといいます。自然そのものに転化してゆかねばならないのです。

出来るだけ無意識的に、自然に描こうとしたポロックの絵画は「アクション・ペインティング」と呼ばれました。ある時点では、彼の絵画があまりにも流動的であったために、まるで体の動きのみがキャンヴァスに写されているように見られたのですが、それだけではありません。手や体の動きは絵画表現の重要な部分であるのは当然ですが、ポロックのアクションには、画家の全経験の混合物のなかからひきだされて来た誕生を切望する原初形態が含まれているという点において意味があったのです。

ジャクソン・ポロック 略年譜

- 1912 1月28日、ワイオミング州コディに五人兄弟の末子として生まれる。父親は農場労働者であり、一家はアリゾナ、北カリフォルニアなどを転々とする。
- 1928 兄チャールズの影響で絵に興味を持ちマニユアル・アーツ・ハイスクールに入学する。ここではむしろ彫刻に関心をもち神知学に興味を引かれる。
- 1930 ニューヨーク、アート・ステューデントズ・リーグに入学、地方主義の写実作家トマス・ペントンに師事する。
この頃、たびたびアメリカ国内をスケッチ旅行する。またメキシコ壁画運動にひかれオロスコと会う。
- 1935 ニューディール政策の一環としての連邦美術計画に雇われる。
- 1936 シケイロスの「実験工房」で働き新しい技法に接する。
- 1938 アルコール中毒のためニューヨーク病院に入院する。
- 1943 ロバート・マザウェルとともにコラージュを制作、ベギー・グッゲンハイムの今世紀美術画廊に出品、続いて個展を開催する。47年に閉鎖するまで同画廊と契約する。
- 1945 画家リー・クラズナーと結婚する。
- 1947 この頃、ドリッピングによるオール・オーバーな作品を初めて制作する。
- 1948 ベティ・パーソンズ画廊と契約、51年まで毎年個展を開催する。
批評家グリーンバーグが「ネイション」誌上でポロックの作品を賞讃する。
- 1950 ベギー・グッゲンハイムのコレクションによるポロック展をヴェネチアで開催する。
- 1952 ニューヨーク近代美術館「15人のアメリカ人」展に出品する。
- 1954 シドニー・ジャニス画廊で個展を開催する。
- 1956 8月11日、イースト・ハンプトンで自動車事故のため死去。44歳。

【美術相談】

専門知識と経験豊富な美術作家を招き、みなさまの文化活動の援助になればと美術（制作）相談室を開設します。

★相談内容

洋画・日本画を中心にみなさまの制作作品を見て、相談指導をします。また美術史・美術図書などの相談もお受けします。

★相談日・相談美術作家

- 8月25日(日)午後1:00～4:00

洋画家・遠藤原三氏／日本画家・荒井朝吉氏

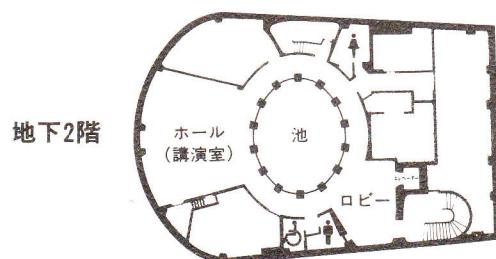
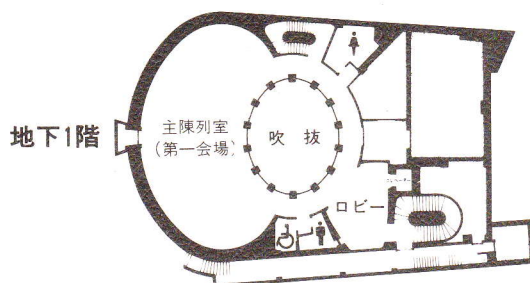
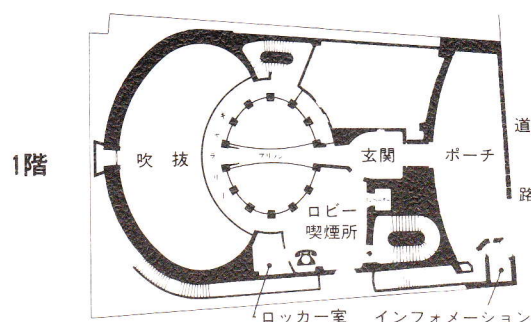
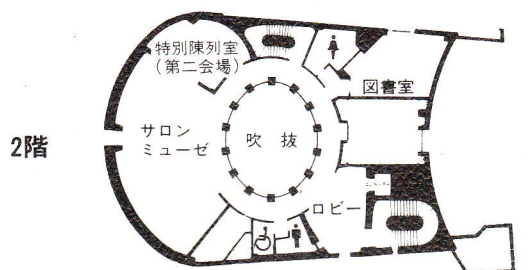
- 9月22日(日)午後1:00～4:00

洋画家・磯村敏之氏／日本画家・荒井朝吉氏

★申込方法

事前に電話で相談内容を申し込みください。

松濤美術館・平面図



【美術映画会】

- 8月25日(日)午後2:00～

「画家 カラヴァッジオの犯罪」Ⅰ・Ⅱ

- 9月15日(日)午後2:00～

「ヴェネチア絵画の光と影」Ⅰ・Ⅱ

会 期 昭和60年 8月20日(火)～9月29日(日)

休 館 日 8月26日(月)

9月2日(月), 8日(日), 16日(月), 17日(火), 23日(月), 24日(火)

開館時間 午前9時～午後5時 (ただし、入館は4時30分)

入 館 料

	個 人	団体 (20人以上)
一 般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

